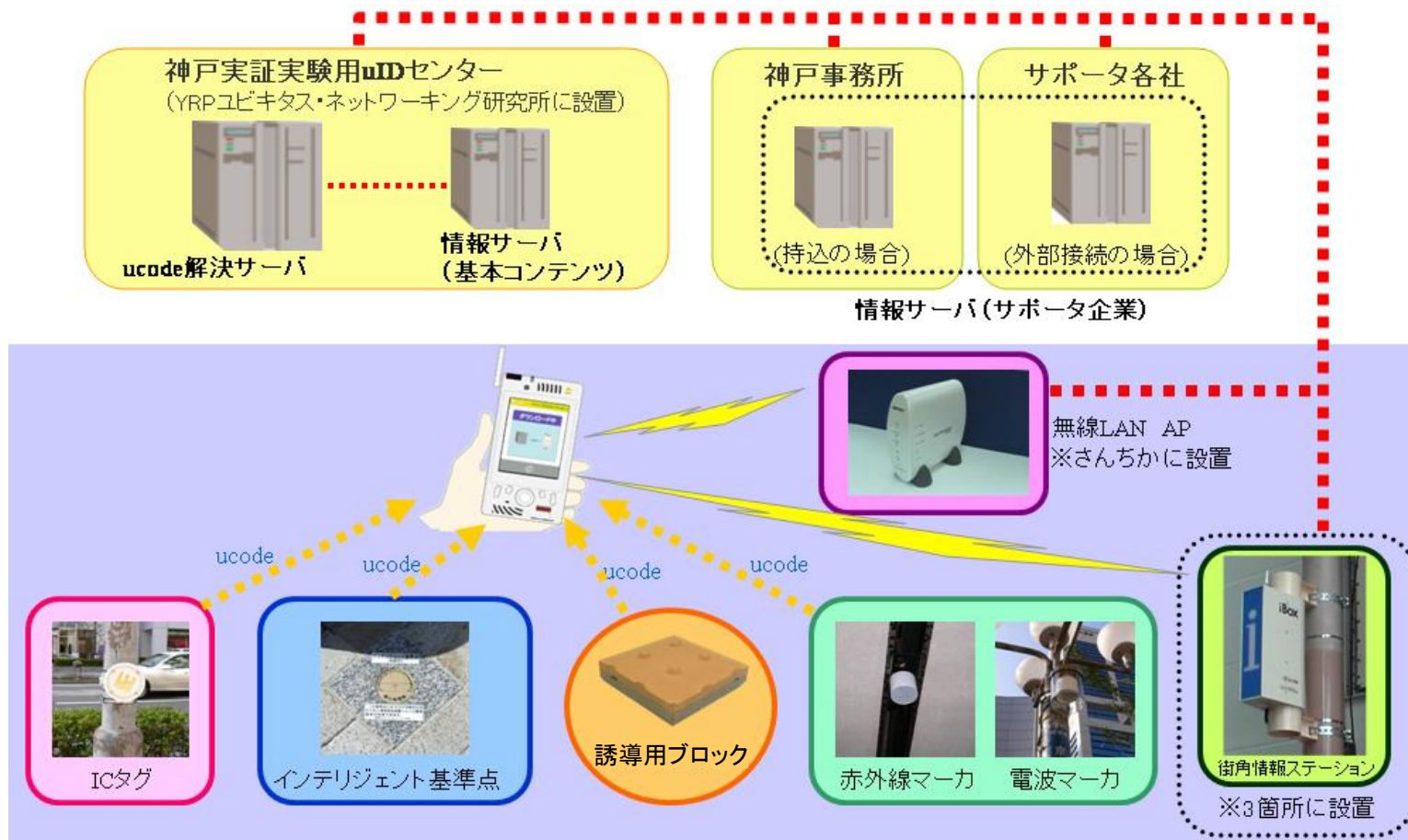


場所情報コード試行運用の経過報告

平成18年3月7日
国土交通省

自律移動支援プロジェクト 実証実験におけるネットワーク構成

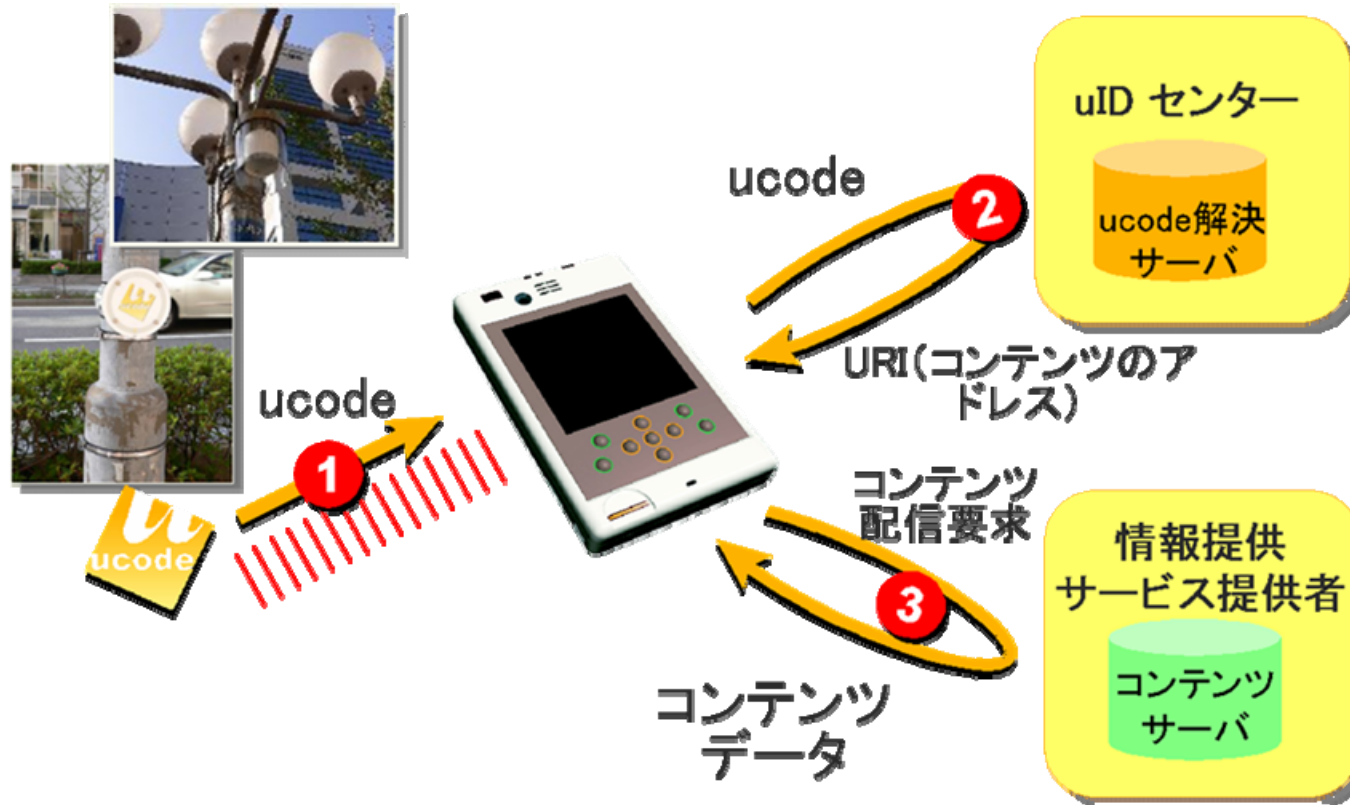
場所コードにucodeを用いて実証実験(神戸、愛知万博、東京、青森など)を通じて検証を実施



神戸での実証実験ネットワーク構成

自律移動支援プロジェクト 実証実験におけるシステム構成

神戸実証実験では、基本的なユビキタスIDアーキテクチャに従った構成



- ①: UCでタグやマーカからucodeを取得
- ②: uIDセンターのucode解決サーバにUCで取得したucodeに紐づく情報の所在地を問合せ
- ③: ②で取得したコンテンツサーバにアクセスして情報をUCに表示

UC:ユビキタス・コミュニケーター

◆店舗などのコンテンツデータ

三宮の交通センタービルに設置した無線LANの環境を使用して、ucodeに紐付けられている店舗情報(HTML形式で画像を含み)のデータをucode解決して取得。



タグからucodeを取得した後にucode解決を行い、コンテンツサーバから店舗情報を取得UCの画面に表示するまでに要した時間は約5秒。
(ucode解決は1秒未満、画像データの転送に約4秒)

◆位置検出実験における地図データの取得

無線マーカ(Bluetooth)からucodeを取得した後、三宮に設置した街角情報ステーションの無線LANの環境を利用して、現在地の地図データを取得。

*この実験は、民間サポータ企業の協力により実施



UCからucode解決サーバにucodeを送り、情報サーバから地図データ(JPEG)を取得するまでに要した時間は約2秒。
(ucode解決は1秒未満、画像データの転送に約1秒)

- ユビキタスIDアーキテクチャ (ucode) による実証実験を実施したが、自律移動支援プロジェクトで必要とされる機能の実現が十分可能である。
- 歩行時のICタグ付き視覚障害者誘導用ブロックによる誘導や大容量の動画ファイルを用いた案内に関しては、キャッシュによる情報提供での対応が有効である。
(街角情報ステーション等による一括ダウンロード)
- 平成18年度以降も、サービス内容や使用環境に応じた、ネットワークの最適化方法の検討等を、引き続き試行運用の中で行っていく。